

食の安全・安心確保交付金事業に係る取組事例

近畿農政局管内で、各府県等により取り組まれた20年度交付金事業の中からトピックスとして、その一部を紹介します。

I 農畜水産物の安全性の確保

6 水産物の安全性の確保

<兵庫県における取組の一例>



アサリ、カキ等の二枚貝は、貝毒(毒性物質を有する植物プランクトンの捕食による毒化)が発生することが知られています。このため、産地段階で貝毒の毒量を検査し、安全を十分確認することが重要です。

兵庫県では貝毒の発生監視調査計画を策定し、県内の産地において原因プランクトンの発生状況に合わせ「アサリ」39回、「カキ」42回の計81回(20年度実績)貝毒の検査を実施しました。

検査の結果、「アサリ」において貝毒を検出したことから、その日のうちに漁業者への出荷自主規制を指導、また、一般市民の採捕、喫食の防止を広報等でお知らせし、看板設置による注意喚起を行い、食中毒被害を未然に防止しました。

上段：「カキの収穫作業」、下段：「収穫された坂越カキ」

II 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止

3 病害虫防除の推進

<大阪府における取組の一例>



アザミウマ類は体長1~2mm程度の昆虫でトマト、イチゴ、タマネギ、メロン等のさまざまな農産物に被害を及ぼすことで知られています。イチジク栽培においては果実内に侵入、食害することでイチジク果実内部の変色、食味の低下を引き起こします。

大阪府では、病害虫防除による環境負荷を低減する防除技術の確立に取り組みました。ネット障壁及びシルバー反射マルチの設置によりアザミウマ類のは場への侵入を軽減するとともに、粘着トラップによりアザミウマ類の発生状況を調査し、防除適期を把握することで、アザミウマ類を対象とした薬剤散布回数を3回から2回に減らしても、高い防除効果が得られることが確認されました。

上段：「シルバー反射マルチ」、下段：「アザミウマの一種」

III 地域における「食事バランスガイド」等の普及・活用の促進及び「教育ファーム」の取組への支援

1 地域における「食事バランスガイド」等の普及・活用の促進及び「教育ファーム」の取組への支援



<大阪府における取組の一例>

大阪府では、日本生活協同組合連合会が、平成20年11月1日及び2日に、食育の普及・啓発のため、大阪城ホールで「たべる、たいせつフェスティバル2008」を開催しました。

当日は、食品関連事業者、教育機関など135団体が出展・協力し、食と食育に関する取組の発表・交流を行ったほか、食生活上の課題提起、「食事バランスガイド」の情報提供などが行われました。開催期間中の来場者は、延べ3万7千人を上回り、多くの大阪府民の方々に、食育について考えていただく機会とすることができました。

「たべる、たいせつフェスティバル2008」会場

の様子